福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度（2019年度）】

年　　月　　日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　176-0001

所在地　東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名　株式会社日本生活介護

認証評価機関番号　　機構　02　―　015

電話番号　03-3991-8440

代表者氏名　佐藤　義夫　　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	佐藤　義夫	経営	H0302053
	②	堀　洋子	福祉	H0701024
	③	長田　晧子	福祉	H1601082
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	港区港南四丁目保育室			
事業所連絡先	〒	108-0075		
	所在地	港区港南4-2-4 都営住宅1階		
	TEL	03-5796-8863		
事業所代表者氏名	園長　長谷川　慶子			
契約日	2019 年　6 月　18 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2019 年　7 月　30 日			
利用者調査結果報告日	2019 年　10 月　1 日			
自己評価の調査票配付日	2019 年　7 月　30 日			
自己評価結果報告日	2019 年　10 月　1 日			
訪問調査日	2019 年　11 月　28 日			
評価合議日	2019 年　11 月　28 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者（保護者対象）調査は、アンケート用紙と第三者評価の目的や趣旨、問い合わせ先等を説明した文書を付けて事業所から手渡しで配付をした。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年　　月　　日

事業者代表者氏名　　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　平成31年度（2019年度）

《事業所名: 港区港南四丁目保育室》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1)保護者との連携により、一体となってお子様を大切に育てます 2)子どもの気持ちや考えを受容する人間的な温かさと、愛情あふれる保育士を育てます 3)保育所の機能と専門性を活かし、地域における子育て支援に積極的に協力します 4)一人ひとりの成長・発達を理解し、子どもの個性と人格を育みます 5)安心し、快適に生活できる環境の中で、人への信頼を育みます
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・様々な環境の保護者の心理を理解し、受け止めることが出来る ・一人ひとりの子どもの発達を見極め、的確な援助を実施できる ・より良い保育を実践する為に、常に向上心を持ち努力することができる
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・子どもの気持ちや考えを受容する人間的な温かさと、愛情あふれる保育を実践する ・認証保育所の役割をしっかり理解した上で、質の高い保育サービスを提供する ・専門職としての自信と誇りを持ち何事にも意欲的に取り組む

〔利用者調査：認可保育所〕　　平成31年度（2019年度）

《事業所名：港区港南四丁目保育室》

調査対象	全園児世帯の保護者を対象とした。複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。
調査方法	郵送によるアンケート調査を実施した。園から調査票を配付して頂き、回収は評価機関へ直接郵送とした。

利用者総数	23
利用者家族総数（世帯）	21
共通評価項目による調査対象者数	21
共通評価項目による調査の有効回答者数	12
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	57.1

利用者調査全体のコメント

調査対象世帯21世帯中、12世帯から回答を得ることができた。満足度が高い項目として、「園での活動は子どもの心身の発達に役立っていますか」「提供される食事は子どもの状況に配慮されていますか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できますか」「保育内容に関する職員の説明はわかりやすいですか」などがあげられる。
総合的な満足度では、「大変満足、満足」が10名、「どちらともいえない」が1名、「不満」が1名であった。「小規模園なので先生の目が届きやすいのは良い」「親が気付かない子どもの気持ちを察したり気付いて下さり、子どもをよく見ていただいていると思います」「いつも丁寧に面倒を見ていただき、また子どもも先生やお友達と過ごすのが楽しいようです」「食事は適度な味の濃さ、栄養バランスも良いと思います」「午睡後も屋内遊びでなく公園で遊んでくれると助かります」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	11	1	0	0
11名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「初めての集団生活で刺激を受け、新しいことをどんどん吸収している」「家族以外の大人や同年代の子との関わりは役立っていると思う」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	9	3	0	0
9名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「毎日楽しかったと言っています」「園では家ではできないことをやってくれている」「もう少し保護者が参加できる行事があると思います」などのコメントがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	1	0	0
11名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「親も一緒に食べられる機会があると嬉しいです」「一度詰まらせることがあったが、すぐに対応し配慮してくれている」などのコメントがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	6	4	2	0
6名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。 「もう少し自然や社会との接点があっても良いと感じます」「園庭がなく、体を十分に使って遊べていない」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	8	1	1	2
8名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 特にコメントはあがっていない。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	11	0	1	0
11名が「はい」、1名が「いいえ」、「どちらともいえない」の回答はみられなかった。 特にコメントはあがっていない。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	10	2	0	0
10名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「お誕生会は午前中からなので一日休む必要がありハードルが高い」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	1	0	1
10名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「お迎えの際にその日の様子を丁寧に教えてくれる先生に感謝です」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	0	1	0
11名が「はい」、1名が「いいえ」、「どちらともいえない」の回答はみられなかった。 特にコメントはあがっていない。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	9	3	0	0
9名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 特にコメントはあがっていない。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	1	0	0
11名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「親身に気遣ってくれている」「些細なことも気に掛けてくれ、連絡をくれることもあります」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	9	0	0	3
9名が「はい」、「どちらともいえない」・「いいえ」の回答はみられなかった。 「まだそのようなことがない」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	11	0	0	1
11名が「はい」、「どちらともいえない」・「いいえ」の回答はみられなかった。 特にコメントはあがっていない。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	8	1	0	3
8名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「以前より厳しくなり正直そこまで必要なのかと思うことがある」「特にありません」「お迎え時に個人的なことを聞かれ、周りに他の方もいたので困惑しました」などのコメントがあがっている。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	11	1	0	0
11名が「はい」、1名が「どちらともいえない」、「いいえ」の回答はみられなかった。 「先生によって細かさは異なるが、伝えようとはしてくれている」などのコメントがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	2	1	1
8名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「不満はありません」「質問をした時でもなかなか回答がなく再度確認したこともあった」などのコメントがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	5	3	1	3
5名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。 「他の相談機関については聞いたことがなかった」「困ったことがない」などのコメントがあがっている。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

入園案内やホームページによって法人と園の理念、方針の周知を求めている

法人は、都内各地で保育事業を展開しており、経営理念や保育方針に基づいて保育事業を推進するために、園長会議などを開催し職員に周知徹底を図っている。保護者に対しては、入園説明や保護者会などで「園のしおり」に基づいて説明しているほか、パンフレットや園内に「保育目標」や「保育方針」、「運営方針」を掲示するなどして周知を図っている。また、法人のホームページでは毎月の園だより、給食だより、保健だよりがみられるようになっており、どのような保育方針によって保育に当たっているのかわかるものになっている。

重要な案件についてはマニュアルに定められ、それに沿って意思決定が行われている

「職員会議（全体会議）」や「リーダー会」が月一回開催されるほか、毎日、非常勤職員を含めた職員全員が参加する昼礼などでイベントや課題等について話し合いを行っている。月一回本社で園長会議があり、その内容について「職員会議」で園長が説明を行い、職員へ周知している。日常的な運営に関わる書類の処理以外に、重要な案件が発生した場合も、法人の諸規程に沿ったルールで意思決定が行われており、結果については職員に周知するように努めている。保護者に対して決定事項を伝える必要がある場合は、園だよりや保護者会で説明を行っている。

組織の仕組みの中で、経営層の役割と責任が明確にされている

法人の仕組みや仕様書などにより、園の役割や事業内容が明示されており、経営層はそれに基づいて自らの役割や責任を説明し、年度初めの職員会議では年間目標、方針を職員に伝えている。経営層は、保育園の運営に必要な様々な事務手続きなどを行うと同時に、保育に関する記録などに日々目を通し、必要に応じて決裁している。

カテゴリー2

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

行事終了毎に保護者アンケートをとり、振り返りと次回に向けた対策を検討している

事業に対する地域のニーズは、港区や法人の園長会、港区芝浦港南地区運営会議・定例会などへの参加や港区からの情報提供などによって、また、近隣保育園の園長会などを通じた交流保育などによって把握が行われている。職員のニーズや意向は、「自己申告書」の提出や個別面談によって職員一人ひとりのキャリアプランや将来進みたい方向性などを含めて把握が行われているほか、会議などにおいても、常に職員の意見を参考にしながら課題の解決に努めている。

保護者の意向や要望は送迎時の会話や個別面談、アンケートなどによって把握している

保護者の意向や要望、あるいは、苦情については、入園時の面談や毎日の送迎時での会話、連絡帳、行事後のアンケートなどによって把握している。また、玄関に設置されたボックスなどによっても意見の収集に努めており、保護者からの意見は、内容に応じて個別に対応を行っている。行事アンケートは年に1～2回実施して、保護者の意向を集約・分析・振り返りと次回に向けた対策の検討を行っている。

地域開発による人口増に対応した園のあり方を中期的に検討していくことが望まれる

園では、行事や研修、防災訓練などのスケジュール、月ごとの保育の重点などを内容とした年度の事業計画を作成しており、年度末に事業報告として年度の在籍児童数や延長保育の実施状況などの総括と反省を行い、次年度につなげている。中長期の事業計画は法人で作成しているが、現在の保育室が、地域における人口の増加と保育園利用ニーズの増加の予想に対応して区によって開設されていることから、今後、利用定員の見直しなどについて、区の動向を見ながら中期的な検討を図っていくことが必要と思われる。

	カテゴリー3
3	経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している	○ 非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

法人及び園の職員として守るべきことやマナーなどの周知に努めている

園では、法人及び園の職員として守るべき事柄について記載された、ポケット版の「ライフサポート理念」を職員一人ひとりが所持しており、毎日の昼礼の際に読み合わせを行うなどして周知に努めている。児童虐待については、セルフチェックリストを使用し、日々の保育を振り返るとともに、園内での研修や外部研修に参加しており、虐待が疑われる案件が発生した場合は、子ども家庭支援センターと連携して対応を行えるよう連絡体制を整えている。

苦情の受付の仕組みがあり、必要に応じて本部や区に報告するなどの対応を行っている

保護者からの園に対する苦情については、苦情の受付責任者や解決責任者が配置されている。保護者に対しては、「入園のしおり」に記載するとともに、入園時の説明会で園や区の苦情受付の窓口の案内を行っている。受け付けられた苦情や意見・要望は「苦情要望受付表」に記載し、本社や区に報告するなどして迅速な対応に努めている。

子育て支援事業の一環として、役割分担のもとで地域の保育ニーズに対応している

法人では、保育方針の一つに地域での子育て支援を掲げているが、保育室は区の子育て支援事業の一部門であり、港区子育て広場など、保育サポート事業と一体的なものとして運用されており、それぞれ役割分担のもとで地域の保育ニーズに対応している。また、園では、ホームページを通じ、毎月園だよりなどの情報を公開して、地域に開かれた施設になるように努めているほか、夏のイベントなどの地域のイベントの手伝いを行うなど、地域との交流に努めている。

カテゴリー4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2(4-2)

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

個人情報やプライバシーなどの保護に努めているほか、情報の取り扱いに注意している

個人情報の取り扱いは、個人情報保護法の趣旨に基づき、利用目的などについて入園時に説明会で保護者に説明し同意を得ている。また、緊急連絡簿や児童票、各同意書など個人情報に関わる資料はファイルに整理し、鍵付きのキャビネットで保管管理をしているほか、毎年、全職員が個人情報保護教育理解度確認テストを行い、個人情報の保護に対する意識の啓発を行っている。コンピューター内の情報管理についても、パスワード管理やUSB・SDカードの持ち出しのルールなどを決めて運用することで機密保持に努めている。

情報共有の方法などを振り返りながら、業務改善を図ることが望まれる

子どもの状況や保護者からの要望等に関する情報を職員間で共有化する方法として、毎日行われる昼礼会議や月1回の職員会議があり、運営状況や課題などの確認に努めている。しかし、職員のアンケート調査によれば、経営層のリーダーシップや事業の透明性の確保などの評価が低いことから、現在の情報共有の仕組みを振り返りながら、職員が一体となって保育園の運営に対する共通の理解を図ることが望まれる。

安全管理と危機対応は、区及び法人のしくみのもとで対応が行われている

安全管理と危機対策については、区の基本マニュアルに準じた対応を行うことになっている。法人においても様々な危機管理マニュアルが整備されており、大きな変化があった場合には法人のプロジェクトチームを中心に内容の見直しを行っている。事故については、「事件・事故等危機情報連絡票」があり、区へ報告を行っており、また、法人の内規により、首から上の怪我などについては必ず病院受診することとしている。昨年度は怪我・事故が複数件発生したため、その都度、怪我や事故の検証を行い、ヒヤリハット報告書を活用し、再発防止に努めている。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況　3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に
取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー5の講評

職員の採用や配置は法人本部が行い、異動などの希望に応じた対応を行っている

職員の採用は法人本部が選考、採用を行っており、自己申告書の希望により、異動については法人が行い、園内の配置については園が行っている。配置の際には特定の職員に業務が偏らないように配慮している。3歳以上の子供の保育にあたりたいという異動要望があがることもある。また、園では、働き方改革の推進を課題に掲げ行い、記録などの効率化やパソコンの使用による業務の効率化を検討するなどして残業時間の削減に努めている。

法人独自の研修プログラムがあり、キャリアパスに対応した研修が行われている

園では毎年「自己申告書」によって職員の意向把握を行い、個別面談を実施している。キャリアパスは1～5等級（新人～管理職）に分けられ、等級に対応した研修の実施を目指している。法人研修は、ヒューマンスキル研修とテクニカル研修の二本立てで行われており、ヒューマンスキル研修はロールプレイを取り入れ、年6回実施されている。法人の研修体系は知識の獲得にとどまらず、保育の専門性をスキルとして身に着けていくためのプログラムとなっており、大変優れた取り組みとなっている。

職員の自己申告によって課題を把握し、法人本部とともに対応している

職員の自己申告書には、自己判断のチェック項目があり、各項目に参考資料が連動しているため、項目についてわからなければ自ら学習や助言を行えるしくみとなっている。自己申告書の内容は法人本部でも把握し、必要に応じて面談等、対応している。また、園が仕様書通り適切な運営ができているかなど本部の担当者が定期的に施設を巡回し、運営や保育の中で課題があった場合は一緒に問題解決に努めている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園では、昨年「保育指針の改定」が行われたことから、新しい指針に対応した保育の理解に向けて、新任研修やリーダー研修などの研修を実施することした。その内容は、
①外部研修と共に、午睡時を利用して園内研修を年間を通じて行った。
②幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や乳児保育の3つの視点を理解することを目的とした。
③研修では、毎月の課題を身近な実例に設定し、自分の意見を発表するなど職員同士で話し合う機会を増やした。
となっている。

取り組みの結果として、
①保育指針の改定に対する意識の芽生えは見られており、今後も継続的な研修などスキルアップの機会が必要である。
②保育環境の変化や工夫しようとする職員の姿は見られたが、今以上の気づきが求められる。
③今年度4月からの準備で職員全員で話し合い、各クラスのコーナー設定を行うことができた。
の3点があげられている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果で確認できるのは、「今年度4月からの各クラスのコーナーづくりの設定」及び「他園の見学による自園の振り返り」であり不十分な結果となっている。また、当初設定された課題（新しい保育指針の理解）と整合性が見られず、目的に対する成果が確認できない。

また、今後の取り組みとして
「判断力・報連相の重視は継続して取り組んでいく」ことがあげられている。
また取組結果の検証については、以下の3点があげられている、
①「課題は簡単なものではなく、保育士が国が定めた基準に準じて保育に取り組む姿勢を重視した」
②「今年度は公立園の環境研修を全員が参加し、他園の様子を見る事で自園の振り返りが出来始めた」
③「危機管理など命を守る大切さを持つために、意識付け・言葉がけもその都度伝えたり、考えられるように工夫することに務めた」

上記3点と今後の取り組みの方向との関連性に乏しく、取り組みの結果として導き出された方針としては不十分と思われる。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園では、職員の負担軽減を図ることを目的に、「書類の書き方の見直し」「勤務内での時間の使い方など」の検討を通じて、働き方改革（書類の効率化による残業の削減）の実現に努めた。
そのための取り組みとして、
①計画に合わせた反省を記載できているか、伝えたい内容がまとまっているか等からはじめ、観察力や表現力を個々に伝えると共に、職員会議で書き方のポイントを伝えた。
②その日の職員の動きや進捗状況がわかる作業表を設けて見える化し、午睡時や夕方の時間を園児数に合わせた保育士人数を配置、時間を平等に使えるようにした。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記の取り組みの結果について、園では以下のように総括を行っている。、
①期日を決め、間に合わない場合は時間配分を配慮した結果、月末までには、提出が出来る様になった。
②業務の効率化に向けた意識が高まり、平日の残業は殆ど見られないなどの成果が見られた。
③職員相互に声を掛け合うなどの園内の活性化にもつながった。

また、今後の方向として「書類の書き方は個人差があるので、個別指導を継続して取り組んでいく」ことが挙げられているが、今後さらに実践的な研修や勉強会を開催し、帳票類の作成に生かせるようにされたい。今後、さらに質の確保や職員間のチームワークの強化、ICTの活用などを含めながら業務の効率化を掘り下げていく試みに期待したい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
1	サブカテゴリー1 サービス情報の提供　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

区や法人のホームページで多数の写真とともに詳細な情報提供を行っている

園の情報は区のホームページには対象年齢や設置場所などが、法人のホームページには毎月の園だより、給食だより、保健だよりが見られようになっており、どのような保育方針をもって子育てをしているのかわかるものになっている。また子どもの写真が多数掲載され、子どもの表情や仕草が視覚的にとらえられることができる。ホームページから保育事業への取り組み状況が窺える内容となっている。

園の利用対象年齢が3歳までという特性を様々な場面で保護者に伝えている

園は、利用対象が生後3か月から満3歳の3月までと限定的であり、就学までに転園するという条件のもとに運営されている。そのため月齢が低い時に入園は可能であるが、必ず転園しなければならないことを様々な場面で伝えている。また、保護者も早い時期から転園先を探すことをしなければならず、就学まで過ごせる保育園と比較して入退園が多い。利用者調査からも年長児からの刺激の少なさが指摘されているが、園の設置趣旨からやむを得ないことと思われる。

見学希望者には見学日を設定しているが、可能な限り要望に応えている

利用を希望する見学者への対応では、園長が、区で作成した園のしおりやリーフレットを渡して、園の概要、園の特性や入園時に準備してもらうものの説明などを行っている。見学では各年齢児の部屋を案内しながら、質問に答えている。園だよりや給食関係、保健関係の連絡や案内、また保育方針などは全て玄関の掲示板に集中して掲示してある。見学日は設定されているが、見学者の要望に柔軟に対応している。

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前説明会において重要事項の説明などを行い、同意を得ている

入園前説明会において、入園のしおりに沿って保育目標や保育方針、重要事項説明を行っている。サービス内容に加えて、保護者の就労状況に合わせた保育時間もそれぞれ伝えて了承を得ている。質疑応答もその場で行って、個々の保護者の理解を得ている。園の提供するサービスへの同意と同時に、行事の写真撮影、インターネットや園だよりへの写真掲載、虫よけスプレーの使用などへの同意が得られれば同意書に署名、捺印をしてもらっている。延長保育やワンモア保育に関しても誤解のないように丁寧な説明をしている。

子どもの状況や保護者の事情などの必要な事項は児童票に記録している

入園時の面談で子どもの成長の過程、授乳、離乳食の状況や特筆すべき内容、保護者の状況や事情を聞きとっており、必要なことは児童票に記録して職員間で共有している。児童票は事務所の鍵付き保管庫に保管し、個人情報として厳重に扱っている。入園当初は特定の保育士を子どもの担当として配置して、子どもや保護者の不安軽減に努めており、降園時には保護者に日中の様子を看護師や担当保育士からも丁寧に伝えている。

転園先の保育園に子どもに関する情報提供を行っている

園では、3歳児には転園を余儀なくされており、保護者は早めに転園申請を行っている。区立保育園に転園する場合は、今までの保育記録、児童票をそのまま転園先に提供して、保育がスムースに移行するように努めている。転園は新たな環境での保育であるため子どもや保護者が不安や緊張を持つことから、保育に支障がないように子どもの特性や嗜好、日中の様子など丁寧な情報提供を行い、保育の継続性に配慮している。転園後も問い合わせなど必要に応じて情報提供を行い、園と保護者の共育てしてきた経緯を伝えている。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(○○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

入園前、入園後の子どもの状況は必要に応じて児童票に記録、把握している

入園前、入園時の状況は入園時の面談で聞き取って児童票に記録している。面談で聞き取った情報は保育士、栄養士、看護師が出席した会議で話し合い共有している。入園後の子どもの状況や保護者の情報は毎月児童票に記録している。ニーズの把握やアセスメントに関してはクラスミーティングで話し合い、最終的には全体会議で決定している。アセスメントの定期的な見直しは半年ごとに行っているが、必要な場合はその都度提案して話し合って変更をするしくみとなっている。

年齢別年間指導計画に基づいて作成した月案、週案に反省点を記載して次回に繋いでいる

年度当初に全体的な計画に基づいて年齢別年間指導計画が策定されている。それを基にクラスで月案を作成し、週案に落とし込んで成長に合わせた保育の予定を作成している。月案では反省点を記録して、翌月に反映させている。週案では備考欄に気になる事を記録し、翌週の予定を変更したり、新たな遊びを取り入れる参考にしている。0歳児、1歳児、2歳児の発達の状況は個々に差が大きく、常に子どもの発達状況を把握し、見直しをしながら年間指導計画に基づき保育を行っている。

子どもの状況は毎月個別カリキュラムに記録して職員間で共有している

毎月個別カリキュラムを作成して子どもに関する詳細事項を記録している。月案、週案の反省を踏まえて状況把握をし、推移を記載し各クラスのミーティングで情報共有を行っている。発達状況に合わせた指導計画はクラスごとに話し合い、リーダー会議、全体会議にあげて討議を行っている。クラスミーティングで十分討議、共有されていくことを重視している。保育日誌、伝達ノート、保護者との連絡帳など記録は多く、共有すべき事項を把握し保育に反映させている。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報保護規程に基づいて、保護者から同意書を得て遵守している

子どもの写真撮影や名前、写真の掲載等に関しては入園時に個人情報保護規程に基づく同意書を保護者から得ている。ホームページなどへの掲載に対する同意があっても、新たに掲載する場合はその都度確認している。園が公園に面したオープンな立地条件である上に、全面ガラス張りであることから、外部から見えることへの対策としてロールスクリーンを活用している。

職員は意識して、子どもの羞恥心に配慮した保育に努めている

職員は常に子どもの羞恥心に配慮して保育を行っている。トイレは排泄時に周囲から見えないようにパーテーションを設置している。威圧感を与えないよう低めに設置されたボードは周囲の目から遮断し、安心できるような環境になっている。また順番を待つように、トイレの前にいくつかの椅子が並べてあり、子どもはトイレタイムを自然な必要なこととして行っている。職員は羞恥心に配慮することを日常生活習慣の中で子どもに伝えている。今後排泄記録に環境状況を記載予定である。また着替えの際も見えない場所で行うこととしている。

法人内及び法人外研修に参加して人権問題に取り組んでいる

特別な配慮が必要な子どもへの対応のために、また子どもの権利条約を理解して保育に反映させることができるように、園内で研修を行って人権意識を高めている。虐待問題に取り組むために外部研修、区の研修に参加し、園内で報告できるしくみを作り職員間で共有に努めている。個々の子どもの気持ちや意向を尊重して、興味ややる気を育んでいく環境整備に努めている。園で保育目標として掲げている3つの「こども像」実現のために子どもの人権を大切にしている。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

法人マニュアル及び区作成のマニュアルを併用して保育を行っている

区作成のマニュアルに準じて法人で園のマニュアルを作成し、併用して活用している。新人職員も多く、すべてマニュアルを基本にして保育業務をしている面もあり、必要な時に確認している。経験の浅い保育士にはロールプレイングを実施して、保育士としての意識付けを行っている。区作成のマニュアルは職員としてのモラルなど働く人としての基本的事項とともに計画作成など参考になる内容が多く、また園のマニュアルでは、送迎時、食事、排泄、散歩など具体的な支援などについて現実的で利用しやすいものとなっている。

園独自のマニュアルは随時見直しをして、常に最新のものとなるようにしている

園では、園の運営に沿ったマニュアル作りをしている。仕事をしていて気になる事や変更をした方がよいと気づいた場合は会議にかけ、見直しをして改訂や追記をして、いつでも適切なマニュアルになるように努めている。例えば、毎月実施している避難訓練についても、その都度地震を想定したり、火災を想定して行っているが、海に近いことから津波対策を検討し、職員間で意見を出し合って、その訓練方法をマニュアルに追加している。子どもの安心安全を優先するための取り組みと評価できる。

保育の業務標準化のために、会議で意見を集約して業務に反映させてている

今年度は保育環境設定の改善を目標に掲げ、保育に関連した様々な環境整備の見直しを行ってきた。業務の標準化は経験の浅い職員が多い場合は必要なことで、法人本部職員の協力を得ながら実施してきた。行事の後の保護者アンケートや日常的な保護者とのやり取りから意向を把握して、業務に反映させて業務水準の見直しにつなげている。クラスミーティングで課題をあげ、見直しが必要な経緯を話し合い、リーダー会議、全体会議で討議して意見をまとめてるなどして業務見直しに取り組んでいる。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

コーナー作りを心がけて、時期に合わせて変化させている

クラスごとに配慮したコーナー作りを設定して、子どもが安心して遊べる場所、また自我の芽生えを感じる場所となっている。絵本を活用するコーナーでは読み聞かせをしたり、別のコーナーでは子どもが自主的に遊べる玩具を設置するなど、子どもの成長や変化に合わせてコーナー作りに変化を持たせており、コーナーを利用した保育は園の特徴となっている。また、保育士にとってもコーナー作りは子どもがどのように遊ぶのか知ることができ、楽しみや学びの一つになっている。

子どもの発達の過程に合わせた保育を行って月毎に見直しをしている

全体的な計画から年間指導計画を策定して、クラスごとに月案を作り、週案につなげている。個々の子どもの発達に合わせて月案に状況を記載して、週案の備考欄に気になる事などを書き留め、次の月に見直している。乳児期には月齢で差が出てくることから、月齢に配慮し、個々の子どもの発達にあわせた遊びにして自我の芽生えを支援している。0歳児クラスは子どもの発達によって動きも異なる事から、保育士は一人ひとりの動きを把握しながら、日々成長の過程を記録している。

子ども同士のトラブルには看護師にも関わってもらい、保護者へ説明している

同年齢児同士のトラブルを未然に防ぐために子どもの気持ちに寄り添う保育に努めている。噛みつきなどについても発達の段階で起こることの一つと捉えている。子ども同士のトラブルによる怪我が発生した際には、看護師が噛まれた子どもの心情を理解したうえで経緯を説明するなど、噛まれた子どもの保護者の気持ちを受け止めて不安軽減に努めている。時には保護者から安全管理上の不安な声や相談があがってくる場合もあり、保護者会でも保護者に理解を得るように説明をしている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登園時には、一人ひとりの保護者と話をするように努めている

毎朝登園時には保護者と必ず話をして、子どもの家庭での様子を聞き取って記録している。短時間での聞き取りであるためチェック方式の記録であるが、子どもの様子を把握して当日の保育につなげている。登園時の聞き取りと同様に、夕方の降園時には園での状況を連絡帳に記録する一方、書ききれない部分も含めて日中の子どもの様子を丁寧に保護者に伝えている。利用者調査の「保育内容に関する説明はわかりやすいか」との問いに92%の保護者が「はい」と回答していることから日々の関り、説明は十分行われていることがわかる。

子どもの発達状態に合わせて、基本的生活習慣に配慮し連続的保育をしている

0歳児の場合は食事や睡眠は個別に取り組んでいるため、保護者と個別面談を繰り返して保護者の意見を聞き、保育をすすめている。子どもの食事や排泄などは、個々の子どもの成長に合わせたものになるため、栄養士とも相談しながら食事量や栄養価をきめて食事を提供している。排泄トレーニングも保護者と話し合いをして、時期や方法など保護者の思いも尊重しながらすすめている。園での基本的生活習慣への支援は、家庭での習慣に結び付くもので、園と家庭が連携して連続性に配慮して保育を行っている。

休息時間は子どもの状況や保護者の意向に基づいて行っている

昼寝など休息時間に関しては東京都のSIDS対策を適応し、0歳児は5分ごとのチェックと記録をして安全対策をしている。月齢や生活リズムの連続性から2回睡眠をとる子どももおり、保護者と相談しながら適切な対応を行って子どもの健康を確保するようにしている。午睡に関しても保護者と個別相談をしており、生活の連続性から保護者との連携を大切にして情報共有をしている。園での日中生活、家庭での生活を相互に情報共有して、連続性をもった生活になるようにしている。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

コーナーを各クラスに作って、子どもが遊びこめる時間となるように支援している

クラスごとに目標やねらいを持ってコーナーを作り、手作り人形など柔らかな材質のおもちゃを置いて、子どもが遊びこめる空間にしている。年齢、月齢に応じて遊びや動きも違うため、保育士は子どもの関心事を確認しながらコーナーを設定し、絵本や表現遊びの道具を置き、また、子どもの興味を引く玩具への入れ替えも行っている。0歳児の時には、足腰の力や体の中心の発達を促す活動も取り入れている。柔らかな材質で起伏のある山を設置したり、動線を考慮した部屋作りになっている。

子どもの発達に合わせた言葉かけや、環境整備で成長を支援している

年齢に合わせて保育士は子どもへの声掛けを行っている。音楽を取り入れて、音の出る玩具で遊びながら全身や手指を使う遊びを覚えている。保育士の言葉かけに対応して、ベビーサインや一語文で伝えようとする子どもの思いを受け止めてコミュニケーションの喜びを共有している。子どもの回りにいる人への関心もあり、成長するに従い友達と関わって遊ぶ楽しみも覚えてくる。0歳児から2歳児までは発達も早く、成長に合わせた環境整備を順次実施しながら保育目標「3つの子ども像」の実現に向けて保育をしている。

園外活動では季節感を感じる遊びを取り入れ、交通ルールを学ぶ機会も設けている

園の前が公園となっており、自然環境に恵まれている。四季の自然に触れあい、聞く・見る・触れる体験から五感を刺激して感性を育てることを目標にしている。園ではガードレールなど問題がある場所を避けてお散歩マップを作成している。安全なルートを把握して、桃やチューリップ、タンポポなどが見られる地域を散策したり、散歩の途中で落ち葉拾いやドングリを集めるなど季節を感じる園外活動を積極的に取り入れている。地域に畑を借りてサツマイモを栽培したり、また交通安全のルールを学びながら散歩を行っている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

親子で楽しめる行事を計画し、準備段階より保護者に伝える工夫をしている

夕涼み会や親子ふれあい大会は保護者も一緒に楽しめるように企画している行事であり、準備段階より保護者に進捗状況を伝えて一緒に楽しめるようにしている。親子ふれあい大会は近隣3保育園合同の行事で、日頃園で行っている体操や身体を使った遊びを盛り込んでおり、保護者も無理なく参加できるように配慮している。また夕涼み会も親子が一緒に楽しめるように工夫し、日頃培った遊びを中心に、親子が一緒に過ごす中で子どもの成長を感じることのできる行事となっている。

地域住民の協力を得た行事も恒例となり、子どもの楽しみとなっている

ハロウィーンでは地域の青果店、高齢者いきいきプラザなどに子どもたちが立ち寄り、シールをもらい、様々な人との交流を楽しんでいる。外部の企業や商店、高齢者施設を回る経験は、ほとんどの子どもにとっても初めての体験であり、園では地域の人との交流は園として大切なことだと考えている。また、地域の畑を借りてのさつまいもの栽培や、避難訓練では引き取り訓練の際に地域の消防署の協力を得るなど、地域の協力を得ながら様々な行事が行われている。

年度当初に年間行事計画を保護者に伝えており、早めに参加を調整できるようにしている

保護者が行事に参加しやすいように、園では年度当初に行事予定を伝えている。内容によっては2か月前に日程が発表されることもあるが、大きな行事に関しては早めに伝えている。利用者調査の「行事の日程は参加しやすいような配慮がされているか」との問いに83%の保護者が「はい」と答えていることからほとんどの保護者は参加しやすい状況であるが、コメントには時間的な制約に関しての不満も述べられている。行事の後にアンケートをとり、翌年に反映させていることから園としては保護者の意向に沿う行事開催を目指している。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

延長保育の際には子どもがゆったりと過ごせるよう職員は長時間保育の配慮をしている

園の延長保育対象の子どもは数人程度と少ないため、職員はゆとりを持ちながら、長時間保育を感じさせないように寄り添いながら保育をしている。健康管理、安全管理のもとで安心して過ごせる時間となるように体温、排泄、補食また夕食などのデータを記録し、また、保育内容、延長保育利用時間を生活記録簿に記載して、保護者と確認したうえで保護者のサインをもらっている。日中からの継続性を持った保育か、日中の様子から新たな遊びを取り入れていくのか、延長保育時間の過ごし方は日中の様子から判断して保育内容を決めている。

延長保育対象の子どもは、記録簿や引き継ぎ簿で情報共有を行っている

園では19時15分までの保育をワンモア保育、20時15分までの保育を延長保育として保育サービスを行っている。19時15分までの保育の子どもに補食を提供し、延長保育児には夕食を提供している。一般保育が終了したのちの延長保育への引継ぎは遅番担当保育士から口頭及び引継ぎ簿で引き継がれている。日中の子どもの様子を知ることは延長保育をする際に大切なことであるため、丁寧な引継ぎが行われ、子どもが安心して長時間保育に移行できるように配慮している。毎日の園日誌からも子どもの様子や留意点を把握して延長保育に反映させている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

区に準じた献立を提供しており、栄養士は毎月、区の会議に参加している

栄養士は毎月区の栄養士の会議に参加して、様々な情報を得ている。園の献立も区の献立に準じたものになっているが、誕生日は園独自の献立を提供している。玄関を入ると「きょうの献立」が見られるようになっている。生活の基本として食べる力の育成とその基礎を培うことを目標にしているため、旬の食材の使用や調理方法の工夫、衛生管理などに努めて安全な給食を提供するなどの基本方針の遵守に努めている。

食事時間が楽しくなるように、個々の子どもに合わせた食事を提供している

子どもの月齢、年齢に合わせた食事の提供が行われている。年齢によってはワンプレートのかわいい容器を使用して、食べる意欲を尊重している。また完食した時の満足感を味わえるように、個々の子どもに応じて食事量を調整しながら提供している。栄養士は保護者向けに随時栄養相談を行って、食事の進め方や離乳食など子どもの食事の大切さを伝えている。栄養相談に参加できない保護者からの問い合わせには随時対応している。おいしそうに盛り付け、食器や食材にも配慮をして、完食する喜びを得られる食事を提供している。

食育についての関心を持てるように、栄養士は食育活動をしている

栄養士は、食にまつわるエピソードやおすすめレシピを掲載した「給食だより」を毎月発行して保護者に情報発信をしている。掲載された子どもの好きなレシピを家庭で作ったら子どもがとても喜んだなどのエピソードも見られる。子どもへの食育活動として子どもと一緒に野菜の下準備をしたり、近くの畑を借りたサツマイモ栽培では、収穫、焼き芋など一連の工程を見せている。「給食だより」は園のホームページにも掲載されており、食に関する知識として参考になるものとなっている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

看護師が子どもの健康管理を行い、感染症予防に努めている

子どもの健康管理は看護師が行っており、0歳児、1歳児の健康診断が毎月実施されている。2歳児に関しては年1回、また歯科検診は年2回実施している。看護師は日常的に各クラスを巡回して、気になる様子の子どもがいないか見ている。また、感染症予防にも力を入れており、感染症に関する情報はいち早く収集して園への影響を少なくするようにしている。散歩などから帰った時の手洗いの励行や年齢に応じたうがい方法の実施、アルコール消毒などで感染症防止に努めている。歯磨きは3歳からで、それまでは「ブクブク」うがいをしている。

医療的ケアが必要な子どもの受け入れを行っている

医師の指示のもとに、医療的ケアが必要な子どもを受け入れている。必要に応じて看護師が医療的ケアの講習を受けて、新たな子どもの受け入れも検討することとされている。また、区の巡回指導もあることから、必要な子どもに必要なサービスを提供することができている。

午睡時のチェックは看護師を中心に適切に行い、事故予防に努めている

うつぶせ寝の危機管理（乳幼児突然死症候群の予防）を東京都の基準に沿って行っている。危機管理・予防策などの園内研修を実施して職員の意識を高めて対応している。午睡チェックは、0歳児はタイマーを使用し、5分おきに「午睡チェック表」に記録して、看護師と保育士が連携して事故防止に努めている。1歳児、2歳児に関しても午睡中は東京都の基準に合わせた時間でチェックをして記録している。乳幼児突然死症候群の防止に必要な対策や安全管理について保護者会でも説明している。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

保護者会を年2回開催し、保育年間目標、園の状況、子どもの様子などを伝えている

年度初めと年度末の2回、保護者会を開催して園からの情報を伝える機会としている。年度初めは保育方針や保育目標、年齢別の年間保育目標、行事予定などを伝えている。園で掲げる3つの「子ども像」の実現という目標についても説明をしている。全体的な話は園長が行い、各クラスからは担当職員が子どもの発達の様子や、日頃伝えられていない事柄などを話している。看護師、栄養士は専門分野に関する情報提供を行って、時には注意喚起をしている。年度末の保護者会はクラス別に日程を変えて行われている。

子どもの誕生月に保育参観日を設けて、子どもの成長を見てもらっている

子どもの誕生月に合わせて、保護者は保育参観をしている。登園後、午睡までを参観して、保育園での子どもの様子や成長を感じる機会となっており、給食の試食体験もできる。別途、保育士体験も設けており、保育士の動きを参考にしながら保育する体験もある。保育園での子どもの様子を身近で見ながら、家庭での様子の違いや保育士と子どものやりとりを知ることは貴重な体験になると思われることから、積極的な参加の呼びかけに期待したい。

子育てに関していつでも相談に応じて、安心して子育てが出来るように支援している

他の子どもと比べて遅れがあるのではないかと考えたり、成長の悩みや食事の悩みなど、送迎時でのやり取りから保護者が様々な悩みや不安を持っていると感じた時は、声掛けをして一緒に考えながら、思いや悩みを共有している。必要な場合は栄養士や看護師にも入ってもらい、専門的な観点から説明をすることで保護者の不安軽減に努めている。子どもの発達は個々に違うことも説明しながら認識を深めてもらうように対応している。職員は日頃のかかわりの中で、保護者の思いに対応した声掛けで話しやすい雰囲気作りに努めている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

地域で行われるイベントに参加して、地域交流をしている

地域では、夏は「打ち水大作戦」と題して近隣道路に水を撒いて涼しさを感じる事業をしており、冬は新潟県から運ばれた雪で小山を作って「雪遊び」を行っている。園ではこれらの事業に参加して地域交流を行っている。雪遊びではソリ滑りを楽しむなど、普段その季節では楽しめない遊びに参加している。また近隣の区立保育園と2歳児交流では「泥んこ遊び」や「焼き芋パーティー」など他園児との交流の機会を楽しんでいる。地域でのイベントに声をかけられて参加することが増えている。

高齢者施設訪問などに積極的に関わり、子どもに多くの体験の機会を与えている

近隣には保育園のほかに高齢者が利用する施設があり、ハロウィーンでもシール集めに協力をしている。施設を訪ねることも多く、節分には鬼に驚いた子どもが高齢者に助けられる場面も見られる。また近隣の青果店店主や企業の社員との交流もあり、子どもは年齢や職種を問わず、地域の人と交流をして貴重な体験を得ている。また近隣の保育園との合同行事や交流を通して、子どもは園だけでは経験できない多様な体験をしている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	看護師が専門職として様々な場面で活躍している	
内容①	子どもの健康管理や衛生環境整備等の役割を担って看護師が配置されている。看護師は子どもの健康状態を常に把握し、感染症予防に努めている。また、発達段階での子ども同士のトラブルによる怪我が発生した際には、専門職としてトラブルの起因や経緯を保護者に説明をして理解を得る役割を担っている。さらに、子どもの乳幼児突然死症候群の予防のために、毎日午睡チェックをして、安全な午睡を保障している。看護師が毎月発行している「ほけんだより」は日常の健康に注意喚起をするもので、看護師の存在は保育の充実に寄与している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル②	年間を通して園内研修を実施し、情報共有やチームワークの醸成に力を入れている	
内容②	園では、午睡時を利用した研修を年間を通じて行っている。研修は、改訂された「保育所保育指針」の理解を中心に職員全員が参加し、各クラスのコーナーづくりなど毎月の課題に対して実際の保育の例をテーマに、自分の意見の発表など話し合いを中心にして実施されている。また、公立園の環境研修に職員全員が参加し、他園の様子を見る事で自園の振り返りを行っていうなど、力を入れた取り組みになっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル③	職員の負担軽減を図ることを目的に、業務の効率化などに努めた	
内容③	職員の負担軽減を図ることを目的に、書類の書き方の見直しや勤務内での時間の使い方などの検討を通じて、働き方改革（書類の効率化等）の実現に努めている。主要には、書類の書き方について、職員会議で書き方のポイントを伝えるなどの取り組みを行い、期日を定め、間に合わない場合は時間配分を配慮したりするなどして、期日までに提出が出来る様になるなどの成果が見られている。さらに、業務の効率化に向けた意識が高まり、平日の残業の減少につながると同時に、職員相互に声を掛け合うなどの園内の活性化にもつながっている。	

《事業所名：港区港南四丁目保育室》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	コーナーの設定や延長保育時など、ゆとりを持った保育が行われており、保護者の安心につながっている
	内容	園では、ゆとりを持った保育を行うことができている。日常の保育にあたっては、クラスごとに年齢、月齢に応じた目標を設定してコーナー作りを行い、子どもが自主的に遊べる玩具を設置するなどして子どもが遊びこめる空間にしている。また、延長保育についても、日中の保育との継続性を持ち、長時間保育を感じさせないようなゆとりを持った保育を行うことができている。毎日の子どもの様子や留意点を把握しながら、子どもが安心して保育が行われる配慮が行われている。
2	タイトル	法人では自己チェックを活用しながら、個々の職員のみならず、組織的な課題の発見と対応を行い、園のバックアップを行っている
	内容	法人では、職員一人ひとりの保育に対してチェックリストを用いた自己チェックを実施し、集計・分析を行ない、その結果をもとに日々の保育の振り返りやヒヤリングを実施している。自己チェックの項目には参考資料が対応しており、自己学習が可能なように設計されている。また、自己チェックにより、組織的な課題が認められた場合には、法人本部が保育の実施状況を確認する指導を行うなど、経営層の経営責任が明確化されている。法人が常に園の運営状況を把握しながら組織全体でバックアップを行っている。
3	タイトル	法人の研修プログラムは、個々の職員の保育のスキル（専門性）の獲得を目指すものとなっており、評価できる取り組みと思われる
	内容	法人では、マニュアル化を徹底するなど、現場での業務の把握が丁寧に行われている。また、毎年の自己チェックの結果に基づいて研修やOJTが実施されている。研修は、ヒューマンスキル研修とテクニカル研修があり、ヒューマンスキル研修ではロールプレイを取り入れている。法人の研修体系は知識の獲得にとどまらず、保育の専門性をスキルとして身に着けていくためのプログラムとなっている。個々の職員の能力を個人的な問題にせずに、共通のスキル（専門性）として育成していく姿勢は評価できる。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	低年齢の子どもの保育園として一人ひとりの子どもへの配慮を徹底することが望まれる
	内容	低年齢児を対象とする保育園として、一人ひとりの子どもの状況を把握し、子どもへの配慮を徹底することが課題と思われる。例えばミルクを飲んだ後、うつぶせにしたままにしておくのではなく、その後どうなるのか想像力を働かせて子どもを注意深く見ていくことが求められる。園には個々の子どもの特性を把握しながら丁寧に保育ができる環境が整備されていることからも、今後、保育士として経験が浅ければベテラン保育士から教えてもらう、あるいは、自ら学習をしてスキルを身につけていくような取り組みに期待したい。
2	タイトル	保育室の公園側の窓が外部から見えることについて、プライバシー確保や防犯の観点から視線を遮る何らかの対応が必要と思われる
	内容	園では、子どものプライバシーの確保や規定に基づく個人情報の保護に努めている。保育室は公園に面しており、また、全面ガラス張りであることから、開放感があると同時に、外部から保育の様子が丸見えの状態となっている。表通りではないことから、人通りは少ないが、プライバシーや防犯の観点から、部分的に曇りガラスにする、あるいはシールを貼るなど、視線を遮る何らかの対応が必要と思われる。区と協議するなどの対応が必要と思われる。
3	タイトル	経営層のリーダーシップや事業の透明性の確保に期待したい
	内容	職員のアンケート調査によれば、経営層のリーダーシップや事業の透明性の確保などの評価が低い。また、コメントにおいても経営層に対する様々な意見が散見されるなど、組織運営に改善の余地があると思われる。保育園は子どもや保護者、さらに職員と多くの人たちの共感やコミュニケーションを基礎として成立する事業であり、特に職員間のチームワークが欠かせない。今後、職員が一体となって園の運営に対する共通の理解を図ることが大きな課題と思われる。引き続き、法人本部と一体となって課題解決していくことに期待したい。